

2021 年度 事業報告

2021 年度

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 山形

2021 年度 事業報告

(2021 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日)

2021 年度の概況

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの事業となりましたが、生活様式を変え、今できることを検討しながら運営をしてまいりました。

特に印象に残ったことは、サンシャイン大森 23 回目の創立記念式典は、皆が楽しめる山形交響楽団員によるバイオリンとピアノの演奏会を催しました。館内に響き渡る美し音色に心まで澄みきっていく感覚をあげました。

日常生活の中では、人と会うことのリスクを減らすため、ICTを使いながら、動画での面会や会議研修などをごく普通に実施することができるようになったことも大きな進歩でした。

また感染管理について努力はしていたものの、2022 年 1 月に職員 2 名、ご利用者 1 名の感染がありました。館内のゾーニング、感染対策の徹底の効果もあり、クラスターの発生までに至りませんでした。しかし、保健所の指示により、デイサービスと訪問看護の事業を一定期間休止しなければならなかったことは施設運営にも影響がでたところでした。

人材育成に力を入れて実施している中で、無資格の職員を採用し、施設で経費を負担して外部研修を受講し、実務経験 3 年を経て、国家試験を受験し、4 名全員が介護福祉士合格を成し遂げられたことは、うれしい出来事でした。

設備関係では、簡易陰圧装置等設置工事、避難用鉄骨階段設置工事が完成しました。

2021年度 各事業部門報告

() は前年度数値

(1) 特別養護老人ホーム

介護報酬改定に伴い LIFE を導入し新たな加算を算定。科学的なエビデンスをもとにした介護展開を開始している。

新型コロナウイルス感染症に関しては感染対策を行いながら対応。面会に関してはリモートを活用したり、県内の陽性者状況をみながらガラスを隔ての面会を実施しました。また、看とり状態等の利用者様には、希望家族に合わせ、抗原検査を実施したうえで直接の面会も導入いたしました。

敬老会や創立記念式典等のイベントは規模を縮小しながら開催し、感染対策のうえで寿賀者ご家族様の招待を行い、ご利用者、職員ともに陽性者を出すことなく安全な生活を実現ができました。

内訳は利用者定員 90 人に対して、平均利用率 98.3% (98.9%)、平均要介護度 3.79(3.7)、平均年齢 87.9 歳(86.9 歳)、入退所の状況は年間入所者 21 人(32 人)、退所者は 19 人(24 人)、うち要介護度 1.2 の特例入所 0 人(1 人)となっています。看取り介護 11 人(14 人)実施いたしました。

(2) 百花のいえ

外出機会が減り、室内でできる、ラーメンの出前や季節ごとの行事を大切にしながら、利用者参加型の作品作成や活動にとりくみました。

新型コロナ陽性者発生時は保健所、主治医と連携しながらゾーニングを実施。レッドゾーンとイエローゾーンでの勤務職員を固定し防御着での介護提供を行い、クラスターを発生させることなく介護提供を継続して行うことができた。

内訳は利用定員 20 人に対し、平均利用率 96.6%(97.6%)、平均介護度 4.16(3.9)、平均年齢 90.7 歳(91.2 歳)、入退所の状況は年間入所 8 人(5 人)、退所者 9 人(5 人)となっています。

看取り介護 3 人(3 人)実施いたしました

(3) ショートステイセンター

各担当ケアマネジャーとの連携のもと、緊急でのショート利用にも迅速に対応し家族を含めて安心した在宅での生活が継続できるよう支援を行った。

年間利用延人数 3,667 人(3,831 人)、要支援者が 28 人 (54 人)、合わせて 3,695 人(3,885 人)で利用率 101.3%(106.4%)でした。

(4) デイサービスセンター

特養での新型コロナ感染陽性者が出たため、デイサービス、サンシャインクラブは 2022 年 1 月 26 日から 2 月 2 日まで営業停止となりました。その後の活動については、感染対

策を行いながら活動をいたしました。利用者の回復までは時間がかかり、規模が縮小傾向になっています。

年間利用延人数は、一般型の要介護者が 2,743 人(2,454 人)、総合事業 414 人(481 人)、合計 3,157 人(2,935 人)で利用率は 34.6%(34.2%)でした。

サンシャインクラブの年間利用延人数は、1,297 人(1,456 人)でした。

(5) 居宅介護支援センター

介護支援専門員 2 名で活動を行いました。 コロナ禍の活動でしたが、できる限り丁寧に関わりを行い、在宅での生活がご利用者様、家族にとっても満足になるように提供いたしました。 山形市 AI ケアプラン作成モデル事業の委託を受け、AI と介護支援専門員両方でケアプランを作成したことは、介護支援専門員にとって視点のとらえ方が幅広くなったことや、ご利用者様も参加しリハビリ意欲がわいたり、思わぬところに効果がありました。

ケアプラン件数合計件 671 件(658 件)でした。

(6) 訪問看護ステーション

ステーションが開所し 2 年目となり、訪問件数も増え健康チェックや退院支援、ターミナル期の看護など医療依存度の高い利用者様の受け入れも多く対応しました。近医以外の先生方との関りも増え、高瀬・楯山・山寺地区以外の利用者様の訪問対応も増加しています。コロナ禍でもあり退院指導を含めた訪問看護の依頼も多く、多様なニーズに応じたサービス提供を、多職種間で連携しながら対応できました。また研修に関しても自己のスキルアップに繋がるよう、ZOOM 研修をメインに定期的に受講しました。

年間利用者数 183 人(医療保険：31 人、介護保険：152 人)(22 人)、訪問延べ件数 800 件(281 件)でした。

(6) シルバーハウジング

山形市から委託を受け、山形市大森住宅シルバーハウジング(高齢者世話付住宅)に居住する高齢者に対し生活援助員を派遣し、安否確認、生活相談、緊急時の対応等のサービスを提供しました。 24 時間室内での活動がないと警備会社から電話連絡が入る仕組みになっています。 会話する機会を多くして、集会所への訪問日には相談に来られない人のため、訪問しお話を聞く等の対応を行いました。 誕生日のメッセージカードをさしあげる活動を継続しました。

内訳は、安否確認が 3,478 件(3,960 件)、生活相談が 36 件(29 件)、緊急対応が 4 件(6 件)でした。

(7) 地域包括支援センター

今年度は第 8 期介護保険事業計画に関する住民懇談会の開催があり、包括支援センターも中心となって参加し、地域住民の方々へ地域の実態について情報共有することがで

きた。この懇談会をきっかけに、高瀬地区では認知症予防教室の開催や、住民主体の通いの場の再開、山寺地区では初めていきいき百歳体操の開催に繋げることができた。昨年度に引き続きコロナ禍ではあったが、介護予防教室の開催や ZOOM の練習会など地域の方々と活動することができた。その他日々の相談業務に加え、困難ケースの個別地域ケア会議の開催や、介護支援専門員連絡会の開催を通し他機関との連携をはかることができた。

内訳は初回相談件数が 159 件(133 件)、相談後の連絡・調整が 4696 件(5669 件)、介護予防ケアプラン作成が 1707 件(1744 件)でした。